
デジモンバベル☆ドリーム

台風X号

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

デジモンバベル☆ドリーム

【Nコード】

N4438S

【作者名】

台風X号

【あらすじ】

台風X号のデジモンシリーズ第二弾。全56回。人間の意味とデジモンの意思が一緒になった時進化が起きる。

第一話 バベルドリーム計画始動、始まりの戦い

イグドラシルが機能停止した直後、ロイヤルナイツの者たちが集合した。

8名のロイヤルナイツである。

「これより、緊急協議を行う。」

デュークモンは、今回起きたデジタルワールドの異変をさらっと言った。

「イグドラシルの機能停止に関しても何も分からない状況の中、デジタルワールド内で厄介な現象が発生している。詳しいことは私にもわからない。」

「現地に行くのが得策だろう。」

ドゥフトモンの意見にみんなは賛成した。

此の異変は、ロイヤルナイツ達が今まで観測した異変の域を超えていたのであった。

此の異変は、人間界にまで影響を及ぼしていた。

「逃げろー！怪物だー」

未知のデジモンが人間界を荒らしまくっていた。

未知のデジモンつまり、新種のデジモンのことである。

野平瀧壺は、未知のデジモンに出くわした。

「わっ！」

「うわっ！いててて。ビックリさせないでよ。」

「君、誰なんだ？」

瀧壺は、恐る恐る聞いた。

「俺の名は、ヨーケモンだよ。」

「ヨーケモン？変わった名前だな。僕は、野平瀧壺だ。」

謎のデジヴァイスが11個現れた。

それぞれの場所に向かい始めたデジヴァイス。

11個のデジヴァイスは11人の所にやってきた。

「瀧壺危ない！ストーンチャオアタック！」

もう一体の未知のデジモンに攻撃したヨーケモン。

「奴は、バラシエルドモン。成熟期。」

「なら、俺を進化させてくれ。」

「でもどうやって。」

「バベルドリームを信じれば届くんだ。お前の力がデジヴァイスに。」

「よしっ。」

バベルドリームを目覚めさせた瀧壱は、デジヴァイスを掲げた。

「ヨーケモン進化、ヨルアリシモン！」

ヨルアリシモンは、バラシエルドモンをにらみつけた。

「サンタダーク！」

バラシエルドモンは、消滅した。

瀧壱とヨーケモンは謎の光に包まれて消えた。

第一話 バベルドリーム計画始動、始まりの戦い（後書き）

次回 第二話 デジタルワールド、輝け3人のバベルドリーム。お楽しみに！

第二話 デジタルワールド、輝け3人のハベルドリーム

11人のメンバーは、デジタルワールドに来ていた。

「この世界がデジタルワールドなのか。」

香勇は、ウヴモンに聞いた。

「そうだけど、暗黒物質から新型デジモンがどんどん誕生しているんだ。俺たちもそうだけどさ。」

「ここの奴は、凶暴なんだよ！」

サマアモンが叫んだ。

「どうということなんだ？」

雷は、タスクリアモンに聞いた。

「この暗黒物質の中にアポカリモンとディアボロモンとバグラモンとガルバトロモンの怨念が眠っているからだよ。だからこの暗黒物質は危険なんだ。」

暗黒物質から新型デジモンが姿を現した。

デジモン情報

グラীবォリイアスモン 成熟期 ウィルス種 必殺技「フオールアウト・ジャック」

クリサンスモン 成熟期 ウィルス種 必殺技「テート・クラッシュ」

デストロマトモン 成熟期 ウィルス種 必殺技「レンサリミットハリケーンミサイル」

この三体の新型デジモンは、新生ロイヤルナイツの香りを嗅いだとたん、サマアモン、ウヴモン、タスクリアモンに襲い掛かった。

「ウヴモン！」 「サマアモン！」 「タスクリアモン！」

三人のバベルデジヴァイスが輝いた。

「これは？」

瀧壱が言った。

「その光で、俺のデジモンが進化したんだ。」

「よしっ！」

「ウヴモン進化、ヤユーヴォモン！」

ヤユーヴォモン 成熟期 必殺技「ハイスピードアロー」

「サマアモン進化、サドントモン。」

サドントモン 成熟期 必殺技「アートバック・リクラクション」

「タスクリアモン進化、タスクリオスモン！」

タスクリオスモン 成熟期 必殺技「ハードデイスショーク」

「いくぞ！」

「おお！」

「フオールアウト・ジャック！」

「ハイスピードアロー！」

「テート・クラッシュ！」

「アートバック・リクラクション！」

「レンサリミットハリケーンミサイル！」

「ハードデイスショーク！」

6つの技のうち3つが邪悪デジモンにあたった。

3体は消滅したのだが、何かがおかしい。

第二話 デジタルワールド、輝け3人のハベルドリーム（後書き）

次回 第三話 3つに分かれて行動開始、コニモンの進化。お楽しみに！

第三話 三つに分かれて行動開始、コニモンの進化

3体が消滅したのだが、デジタマに帰らなかった。

「瀧壺、これっておかしいんだよ。」

「どういう意味で？」

「デジモンは死ぬときにデジタマに帰るのだけど、帰らないというなんて意味が分からないんだ。」

「そういうことなんだ。瀧壺、お前って少し馬鹿だな。」

「うるせえ、お前はどうかんだよ香勇！」

「デジタルワールドに来る前にウヴモンに教えてもらったんだ！」

此の口論から4分後・・・

「みんなでチームを3つで別れようよ。」

「良いね、これなら情報と冒険の交換ができる。」

3つのチームは、東、西、中の順に分けられた。

東は、瀧壺、香勇、雷、泉堂の4人と4体。

中は、月夏、博文、希里花、介助の4人と4体。

西は、蒔音、ミサ、有美火の3人と3体で別れることにした。

早速、中のチームを見てみよう。

月夏たちは、暗黒物質の出ているところをバベルデジヴァイスで確認をしていた。

「月夏ちゃん、あれじゃないかな？」

「小さいけどたくさんある。」

コニモンと博文が、暗黒物質が新型デジモンに変わる瞬間を見た。

マネドルスモン成長期 成長期 必殺技「マネードリット」

コニモンは、150体のマネドルスモン成長期を相手にすることにした。

「博文、行くよ僕！」

「ああ、任せるぜ！」

「プラントネットカッター！」

コニモンの両腕が刀になり、マネドルスモン成長期を圧倒させていた。

「行くぞ！マネードリット！」

「コニモン、避ける！」

「ああ、更に行くぜプランツジャック！」

しかし、マネドルスモン成長期15体は、進化してしまった。

マネドルスモン成熟期 成熟期 必殺技「マネードラム」

コニモンは、博文に言った。

「僕を進化させてくれ。」

「コニモンの気持は、バベルデジヴァイスに届いているぜ！」

「コニモン進化、ポインドラモン！」

「ポインドラモン、わけのわかんねえ奴だ。殺っちまえ！マネードラム！」

ドラム缶の形をしたお金が襲ってきた。

「サントリングファイヤー！」

お金が溶けて、マネドルスモン成熟期たちに襲いかかった。

「ギャー溶けていく。うぎゃー！」

マネドルスモン成熟期たちは、一気呵成に消滅した。

第三話 三つに分かれて行動開始、コニモンの進化（後書き）

次回 第四話 西チーム、謎を見つける。お楽しみに！

第四話 西チーム、謎を見つける

蒔音とミサと有美火は、デジモンをバベルデジヴァイスの中に入れて、密林地帯に入った。

「だんだん暗くなってきたな。」

蒔音はそういうと緊張してくる2人の少女。

「蒔音君、そういえば此の密林地帯で暗黒物質があるのよね。」

「たぶん、デジモン達が言っているから間違いがないのだが。」

「ワロモンの言うで正解なの？」

「正解だと思うけど。おかしいな、デジモンの気配を感じ取れたはずなんだ。あともう少し奥に行ってみてよ。」

三人は、ワロモンの言うとおりに少し奥へ入り込んだ。

「次第に強くなってきたぞ。蒔音。」

「ワロモンの言うとおり、何かがこの先にいるようだ。」

オレーモンとサインカモンもデジモン反応を感じていた。

暗黒物質を見つけるもデジモンに変わってしまった。

「ブラックパタモン、成長期。」

三人は、デジモンをバベルデジヴァイスから召喚した。

ブラックパタモンは、エアーガストで三体の足止めをしようとするも、ワロモン達は弾き飛ばした。

「様子がおかしいぞ。まさか進化する気か。」

ブラックパタモンは、進化してしまったデビモンに。

「デスクロウ！」

ワロモン達は吹き飛ばされた。

「くそー、蒔音達、俺達も進化してデビモンを倒そう。」

「ああ。」 「うんっ！」

「オレーモン進化、オラオラモン！」

「サインカモン進化、サインストームモン！」

「ワロモン進化、トナイワロモン！」

デビモンVS3体の成熟期。果たして勝つのはどっちだ。

第四話 西チーム、謎を見つける（後書き）

次回 第五話 西チームの勝利とタスクリオスモン。お楽しみに！

第五話 西チームの勝利とタスクリオスモン

「進化しただと。」

「行くぞ！」

「オラオラソウルクラッシュ！」

「スプラッシュトルネード！」

「ビートハード！」

3つの攻撃が、デビモンに命中した。

「耐えてやる。」

「そうか、ならば俺秒拳！」

デビモンはその攻撃を受け消滅した。

「よっしゃ！」

しかし、暗黒エネルギーの気配がいきなり現れた。

「今度はなんだ？」

「行ってみよう。」

一方、東チームは……

タスクリアモン達が無数の暗黒エネルギーを感じ取ったことをしり、先を急いでいた。

「ヨーケモン、行けるか。」

「ああ、行こうぜ瀧壺！」

彼等が来た場所は、妙な光景だった。

暗黒エネルギーの発生源を見つけた。

「此処が、第一の発生場所か。」

大量の暗黒エネルギーは、邪悪なデジモンとなった。

「タスクリアモン、何かが見えている。」

「雷の言うとおり、第一の存在は、メガリスモンだ。奴は地面を沈下させるという恐ろしい力をデジモン。完全体だからまだ俺たちでは戦えない。」

「それに暗黒エネルギーが、マネドルスモン成熟期になった。」

「しかも前より数が多い！」

雷は、バベルデジヴァイスに闘志の心を見せた。

「行くぞ、タスクリアモン。」

「おお！」

「タスクリアモン進化、タスクリオスモン！」

タスクリオスモンの攻撃、これは見逃せない。

「ストーンブルガリスト！」

マネドルスモンの数は減ってはいるが、まだ多く残っていた。

「俺達も任せろ！」

「ヨーケモン進化、ヨルアリシモン！」

「ウヴモン進化、ヤユーヴォモン！」

「ナイトオブカイザー！」

「スターハンド！」

マネドルスモンの数をどんどん減らしていった。

第五話 西チームの勝利とタスクリオスモン（後書き）

次回 第六話 集結せよ、バベルドリーム。お楽しみに！
成熟期全員集合でもあるお話なので必見です。

第六話 集結せよ！バベルドリーム

マネドルスモンの数が減っていた。

「タスクリオスモン、見ろ！」

雷は、タスクリオスモンに教えた。

「なんだあれは？」

メガリスモンが暗黒上の球体に包まれていた。

ヨルアリシモンはあること言った。

「あれは、進化だ。」

「なにっ！」

「まさか、究極体に。」

「俺達に立ちふさがる敵の中では厄介だな。」

「ああ、一番厄介。」

「みんな！」

月夏達が戻ってきた。

11人でそろったところで瀧壺はあることを言った。

「みんな進化できるか。」

「ああ、進化できる。バベルデジヴァイスのコツをつかんだ。行くぞ！」

「おうっ！」

「セモグモン進化、セードカンドamon！」

「サマアモン進化、サドントモン！」

「コニモン進化、ポインドラモン！」

「タリファアモン進化、ノースカルモン！」

「オレーモン進化、オラオラモン！」

「サインカモン進化！サインストームモン！」

「アナリタモン進化、アナリーモン！」

「ワロモン進化、トナイワロモン！」

11人全員集合と成熟期11体全員集合となった。

「いっけええええええ！」

「ナイトスラッシュ！」

「スターブレイブ！」

「ヌーングライ！」

「イースンフオールウツト！」

「エナジーストームバベル！」

「プラントフレイアー！」

「ドームレトウ！」

「オラリオンボンバー！」

「スプライトキャノン！」

「アーツポンド！」

「轟きに満ちる！」

11体の攻撃は、マネドルスモンを一気に吹き飛ばして消滅させた。

メガリスモンが進化していた。

「ダークメガリスモン。究極体。」

「これは先が長くなりそうだ。」

「ああ、だが俺達の心のバベルは、屈しない。」

「ダークメガリスモンが倒せる日もいつか来るね。」

「そうだが、やるときが来る。」

第六話 集結せよ！バベルドリーム（後書き）

次回第七話松樹とガイモン、ナルシストレベルの戦い。お楽しみに！

次回見逃さないよ。

第七話 松樹とガイーモン、ナルシストレベルの戦い

瀧壺達は、ダークメガリスモンが見える位置から北東に移動をしていた。

「瀧壺、来るぞ。」

香勇が指をさしたところから、シボロスモンがやってきた。

「シボロスモン、完全体。」

「まずい完全体だ。」

しかし、その時！

「ガイーモン進化、ガイドラモン！」

シボロスモンは、ガイドラモンを見て笑っていた。

「下らねえ、成熟期ごときに何ができる。」

「甘く見ていると怖いのだよ君。アークナルバディスト！」

シボロスモンのいる地面が根こそぎ爆発を起こした。

「ぐわああああ！ふざけやがって！ロンドダンスブレイク！」

ガイドラモンに当たった。

「よくも、こんな私を攻撃したな。許さないよ。ジェットファング！」

シボロスモンを巨大な右腕に巻き込んで、地面に思いっきり叩きつけた。

「私は、今大変怒りに触れている。デスジャスミン！」

「強い、強すぎる。ぎえやややああああ！」

シボロスモン消滅。

松樹は、瀧壺達の所にやってきた。

「よろしく、みんな。」

「あ、ああ、よろしく。」

瀧壺と香勇は握手を交わした。

第七話 松樹とガイモン、ナルシストレベルの戦い（後書き）

次回 第八話 デジタルワールドで一番臭い奴、ダークストロミン
グモン出現。お楽しみに！

第八話 デジタルワールドで一番臭い奴、ダークストロミングモン出現

松樹と瀧壺と香勇は、会話をしていた。

「ところで、松樹はこのデジタルワールドに来て、変な現象が起きていると知っているのか。」

「もちろんだよ。香勇、瀧壺達に言わなければならないことがあってね、この世界の広大さには驚くことが多いよ。」

瀧壺は、すごく冒険する気になった。

「よっしゃ、ダークメガリスモンを早く倒して、とことん冒険しようぜ。ヨーケモン。」

「そうだな。瀧壺の言うとおりだな。」

その時、焼き魚の臭いがしていた。

「なにかしら、いいにおいがあっちの方でするわ。」

月夏は、その臭いのもとをみんなで進むことにした。

「デジタルワールドでこんな匂いしていたっけ、ウヴモン。」

「ヨーケモン、それが今までしてなかった。もしかしたら嫌な予感がする。」

「その予感は、ダークストロミングモン。そうこの俺である。」

ダークストロミングモン 魔人型 完全体 必殺技「ポイズンバリ
ケード」

第八話 デジタルワールドで一番臭い奴、ダークストロミングモン出現（後書き）

次回 第九話 みんな気絶！ダークストロミングモンの脅威！お楽しみに

第九話 みんな気絶！ダークストロミングモンの脅威

「俺の名は、ダークストロミングモン！」

「完全体。とてもそんな感じには見えないけど。」

希里花はそう感じていた。

12体のデジモンはすでに成熟期になっていた。

「へー、成熟期ごときで俺を倒すつもりかい。そんなこと無理だね。」

「やってみないとわかんねえだろ！ナイトスラッシュ！」

「オロラスターバースト！」

二つの攻撃をダークストロミングモンはいとも簡単に引き裂いた。

「なにっ！」

「フィッシュクロー！」

焦げくさい魚の臭いとともに鋭い爪が襲いかかった。

「こいつ、見た目によらず強い！」

「まだまだこれから食らえ！ポイズンバリケード！」

とてつもなく臭い空気が瀧壱達に襲いかかった。

「なんだ・・・気が・・・」

「変な・・・気分だ。」

「やべっ、派手にやっちゃった。」

次回予告

「怒りの完全体発動。」

「よくも気絶させてくれたな、ナイトリックモンお仕置きしてやれ！」

「おうっ！」

「次回、第十話完全体発動！ダークストロミングモンを蹴散らせ！」

第九話 みんな気絶！ダークストロミングモンの脅威（後書き）

次回もまたな。

第十話 完全体発動！ダークストロミンググモンを蹴散らせ！

12人と12体はまだ気絶していた。

「ダークメガリスモンに届けてやるか。」

「流石にきつかったぜ瀧壺。」

「ああ、反撃と行こうか。」

12人と12体のみんなは、目を覚まして反撃を始めた。

「スリットミサイル！」

「セイギヨバンパー！」

「フィッシュクロー！」

攻撃を封殺してしまう焼き魚の臭いを放つ爪。

「こうなれば、うおおおおおおおおおおお！」

「ヨルアリシモンの叫びが俺に伝わったぜ！」

「ヨルアリシモン進化！ナイトリックモン！」

「なにつ、進化しただと。」

「行くぞ。グランドナイトストーム！」

「くっ、とめきれなああい！」

ダークストロミングモンは怒りが爆発した。

「ポイズンハリケード！」

「そんな臭い攻撃は通用しない！スクラップダークラスト！」

「ぎややあああああ！鼻に来たこの臭い！」

ダークストロミングモン消滅。

「やった！」

ダークメガリスモンの前に現れたデジモンがいた。

スツラツトルモン 完全体 獣型 必殺技「スコールレイト」

「騒がしいぞ。スツラツトルモン。」

「ダークメガリスモン様大変です。人間達がやってきました。」

「なに、ならばネソゲモン達よいでよ。」

40体のネソゲモンがやってきた。

「ダークメガリスモン様、どうかなされましたか？」

ケモン集団のボス、テラゲモンまでやってきてしまった。

ネソゲモン 完全体 小人型 必殺技「ストレンドボーブ」

テラゲモン 究極体 昆虫型 必殺技「バーストロヴァ」

「ネソゲモン2体に人間どもを止めるように命令する。」

第十話 完全体発動！ダークストロミングモンを蹴散らせ！（後書き）

次回第十一話カゼヴァリウモン、風力で落とし切れ！お楽しみに

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4438s/>

デジモンバベル☆ドリーム

2011年11月8日18時13分発行